

基地あるかぎり、
沖縄の悲しみは終らない

「ひまわり」を愛する幼い少年の夢も、少女の未来も、
一瞬のうちに奪われてしまった……。

いよいよ製作開始

待望の映画化！

基地と人間の壮大なドラマ。

映画

ひまわり

～沖縄は忘れない あの日の空を～

日本の未来を問う！
2012年完成予定！

《製作》

企画・製作：桂壮三郎

原案：「石川・宮森ジェット機墜落事故証言集(石川・宮森630会編)」より

脚本：大城貞俊

プロデューサー：本村初枝

配給・宣伝：ゴーゴービジュアル企画

映画「ひまわり」製作委員会

ゴーゴービジュアル企画・沖縄県映画センター

■映画「ひまわり」全国製作配給上映実行委員会

ジェット戦闘機は炎上しながら校舎へ激突した！
一瞬に奪われた命、今、あきらかになる宮森の悲劇

沖縄の魂を描く完全映画化！

4人に1人が犠牲になった、あの悲惨な沖縄戦から一命を得た沖縄県民は、漸く戦争のない時代を迎える日常の暮らしを守るために一生懸命働いていた、その矢先の1959年6月30日、突然、米軍のジェット戦闘機が石川市(現うるま市)の住宅街へ墜落しジェット戦闘機は民家を押しつぶしながら宮森小学校に燃料を撒き散らし、炎上しながらコンクリートの校舎に激突した。住民6名、学童11名の尊い命を一瞬に奪い、重軽傷児童154名、住民56名を出す大惨事となった。そこはまるで生き地獄の有様だった。沖縄戦で多くの命を失った県民にとって戦後生まれの子ども達は真に沖縄の希望の星であった。基地さへなければ子ども達は尊い命を犠牲にすることもなかった。それだけに遺族をはじめ県民の嘆き悲しみは尽きることはなく52年たった今日まで続いている。

沖縄の戦後は、はじめに米軍基地ありきであった。その後、サンフランシスコ講和条約等によつて日本は独立したが、米軍の沖縄占領は続いた。1972年に沖縄返還は果たされたが米軍は駐留を続け、「核も基地もない沖縄を！」の県民の願いは退けられたままである。今日まで日米両政府は沖縄に多大な基地を押しつけ県民へ犠牲を強いている。その間、米兵による少女暴行事件、沖縄国際大学へのヘリコプター墜落事故等々危険な基地被害は後を絶たっていない。2009年、時の首相が普天間基地問題で「普天間基地は国外、最低でも県外へ」の公約は県民へ希望を抱かせた、しかし、その公約は無惨にも破棄された…。

映画は、米軍のジェット戦闘機の墜落事故で多くの友達を亡くした少年は、その後も基地の事故、事件に翻弄されながら、ふたたび宮森事件を繰り返さないためにも、基地撤去の抗議を戦い、変わらぬ沖縄の現実にも絶望せず、逞しく生きてきた男と家族の悲しみと怒りと希望、そして、沖縄の魂を壮大に描く作品として2012年に製作される。

沖縄県では、映画「ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～」製作を成功させる沖縄県民の会を発足させ県民創意の映画製作を進める。同時に、全国的な製作支援運動を起こし、製作から配給上映運動まで全国的に成功させる組織として「全国製作配給上映実行委員会」を設立させ活動を始める。

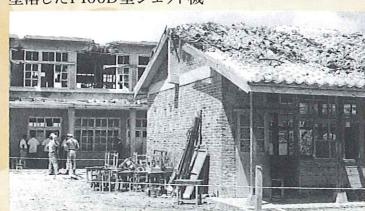
撮影は2012年の7月から9月に沖縄で現地ロケを敢行し、完成は同年の12月頃を予定とする。

公開は2013年1月より東京・沖縄をはじめ都市部での先行上映を行いその後順次全国上映を行う。

■石川・宮森ジェット機墜落事故とは。

沖縄戦の終結宣言から14年後の1959年6月30日、午前10時40分頃、嘉手納基地を離陸した米軍ジェット戦闘機が突然、石川市6区5班、8班(現うるま市石川松島区)そして、宮森小学校に墜落炎上した(後に整備不良だった事が判明した)。一瞬のうちに学童11名、近隣住民6名(さらに事故の後遺症で1名)の尊い命が奪われ、210名の重軽傷者を出す大惨事となった。

一瞬火の海、死傷者百名



【物語】

激しい爆音とともにヘリが沖縄国際大学へ墜落、米兵に封鎖される事故現場を見た山城良太は、52年前の石川市の空を思い出していた。良太は宮森小学校の六年生で仲良しの茂と豊と二年生の一平達と一緒に遊び回っていた。新学期、良太の学級に宮城広子が転校して来た、良太の心は華やいだ。良太の家族は祖母のマカトを含めて6人家族で、マカトは夫と息子と娘を沖縄戦で亡くし今も戦争の傷跡を引きずっている。沖縄の青い空の下で良太の家族も、一平の家族も、広子の家族も一生懸命に生きていた。1959年6月30日、突然、米軍のジェット戦闘機が墜落し民家を押し潰し炎上しながら宮森小学校の校舎へ激突した、悲鳴を上げながら逃げまどう子どもたち、良太は広子を助けようとしたが広子は大きな傷を負い息絶えていた、校庭では一平の変わり果てていた姿があった。悲しい惨状のなか一平が大切にしていた花壇のひまわりが風に揺れていた・・・。

製作日程予定

2011年

9月~12月 シナリオ検討会・諸準備
製作を成功させる沖縄県民の会発足
全国製作配給上映実行委員会の発足

2012年

1月~6月 キャスト決定・シナリオ決定稿
沖縄ロケハン
7月~9月 撮影
(ロケーション、ロケセット、ステージ撮影)
9月~11月 仕上げ作業 編集・音楽・現像関係
12月 完成披露試写会(沖縄・東京)

2013年

劇場公開(沖縄・東京・他)／全国上映

■ キャスト候補：日本沖縄総映画演劇人(交渉中)

「米軍機の主な墜落事故」

[復帰前]

1959年6月30日 石川市の宮森小に米軍戦闘機墜落。児童ら17名死亡、200人余りがけが。
1961年12月7日 具志川村(当時)川崎の民家に米軍ジェット機墜落。民間人ら6人は死傷。
1962年12月20日 嘉手納町屋良の民家に米軍輸送機が墜落、民間人ら7人が死亡し8人が重軽傷。
1965年6月11日 読谷村親志部落で、演習中の米軍ヘリコプターからトレーラーが落下・道を歩いていた小学五年生の棚原隆子ちゃんを圧死させた。
1968年11月19日 嘉手納基地内でB52墜落。住民4人が負傷。

[復帰後]

1973年12月5日 海兵隊所属機(中型輸送ヘリ)が西原村(当時)小那覇の社屋新築現場付近に墜落、乗員4人が死亡。
1976年11月4日 普天間基地所属のCH53が、渡嘉敷島付近に墜落、乗員4人全員が行方不明。
1978年3月3日 普天間基地所属のCH46が、キャンプ瑞慶覧沖合に墜落、乗員4人が死亡。

1980年10月2日 普天間基地滑走路に観測機が墜落。1人死亡。
同年12月19日 普天間基地所属のCH46が北部訓練場内に墜落。乗員1人が死亡。
1985年7月12日 普天間基地所属のCH53が国頭村の林道に墜落。乗員4人が死亡。
1999年4月19日 国頭村の北部訓練場沖合にCH53墜落。乗員4人が死亡。
2004年6月15日 北谷村の民家の庭(※所属・米海兵隊)米軍機F/A18からの部品の一部が落下。
同年8月13日 沖縄国際大構内(普天間)米軍ヘリ(CH-53D)が墜落。
2006年3月30日 嘉手納上空(嘉手納)米軍機(F-15)からパイロットのミスにより訓練用照明弾を発射。
同年12月13日 トリニティ通信施設沖の海上(海兵隊)米軍ヘリ(CH-53D)が車両吊り下げ中、乱気流を受け、安全のため同車両を海上に投下。
2008年10月24日 名護市(嘉手納エアロクラブ)嘉手納エアロクラブ所属のセスナ機が墜落。

引用：沖縄タイムス記事より。

■ 映画「ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～」製作を成功させる沖縄県民の会

○代表呼びかけ人

加藤彰彦(沖縄大学学長)・池宮城紀夫(弁護士)・大城節子(沖縄県婦人連合会会長)
豊濱光輝(石川・宮森630会会长)・平良嘉男(西原中学校校長・体験者)
照屋義実(元沖縄県教育委員会委員長、(株)照正組社長)
宜野座映子(ハーフセンチュリー宮森代表)・森口豁(ジャーナリスト)
玉寄哲永(沖縄県子ども会育成連絡協議会々長)

順不同

■ 映画製作へ期待する。【映画「ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～」製作を成功させる沖縄県民の会、加藤彰彦(沖縄大学学長)】

激しい勢いで子ども集団に米軍ジェット機が突っ込み、墜落炎上したあの日。傷ついた子どもと地域住民の痛みと悲しみは、平和な社会実現のための原点として、今、蘇ろうとしている。
憎しみと破壊の連鎖をくり返す戦争。宮森小学校の悲劇、庶民の暮らしの破壊を二度とくり返してはならない。
私たちは、この映画製作を支援する会として、安心できる時代を作るため次の一步を踏み出す決意である。

【製作本部】

○埼玉県所沢市小手指南2丁目23番地11号
ゴーゴービジュアル企画
電話:04-2968-4385
FAX:04-2995-7911
メールアドレス:gogo@vp.net

○沖縄県豊見城市渡嘉敷250番地101号
沖縄県映画センター
電話:098-856-2155
FAX:098-856-2163

配給会社

【製作協力券の購入・普及販売・参加申込書】

映画「ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～」製作に御支援をお願い申しあげます。

映画製作には、多大な製作費が必要となります。映画「ひまわり」製作委員会は、製作と上映の成功を確実なものとする為に全国へ本映画の製作協力券を広めていきたいと考えています。

1枚1枚の製作協力券の普及が映画完成の保障となります。皆様のあたたかい御支援、御協力を心よりお願い申しあげます。

「製作協力券御購入・製作支援実行委員会」への御参加

製作協力券を一口(100枚・10万円)以上御支援頂いた方(団体・個人等)は製作支援実行委員会の一員となり、製作支援実行委員会(製作支援委員)には、撮影現場の見学、出演者・スタッフとの交流などを予定しております。また、映画のタイトルクレジット等にお名前を可能な限り掲載いたします。

(購入・普及販売の方法)

- 総製作資金を賄う為に、全国で1,400口(1億4千万円)が目標になります。
- 製作協力券は1枚1,000円とし、100枚分(10万円)を一口とします。
- 製作協力券の発売予定は2011年10月から製作終了時迄とします。
※製作を支援する製作協力券ですので、製作の準備から製作終了までの期間に普及販売するものです。
- 本映画完成後には、全国どこの上映会(有料試写会を含む)でも御鑑賞いただける製作協力券です。
※製作協力券は前売券とは違います。前売券とは、主催・会場・日程等が明確なもので、その会場でのみ有効な券です。
- 製作協力券の有効期間は本映画公開より1年です。

(下記の製作協力券・申込書をご記入の上、お近くの配給社及び製作委員会へお渡しください。)

----- キリトリ -----

映画「ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～」

| | | | | |
|-----------|----------------------|--------------------------------------|----------|---|
| 製作協力券・申込書 | お名前又は団体名 | | | |
| | ※団体の場合は担当者名も御記入ください。 | | | |
| | 御連絡先 | ご住所：〒 電話： FAX： メールアドレス： | 製作協力券申込み | 口 |
| | | | | 枚 |
| | | | 円 | |